

一般社団法人管路診断コンサルタント協会
理事（副会長） 角田 五郎



下水道の目的は、公衆衛生、生活環境の改善、安全、安心、さらに水環境の保全と多岐にわたります。令和3年度末における全国の下水道管渠の延長は49万km（地球12周分）、標準耐用年数の50年を経過した管渠の延長は約3万km（総延長の6%）、10年後には約9万km（約18%）、20年後には約20万km（約40%）と今後急速に増加することにより、下水道ストックの老朽化は確実に進行していきます。また、人口減少化も顕著となっているなか、下水道が今後もあって当たり前のインフラであり続けるために、それらの維持管理・更新、そして健全な経営を限られた人員、財源において実施していかなければなりません。

管診協は、2000年に「下水道管路施設改築・修繕に関する設計委託業務標準歩掛（案）」の初版を発刊し、国の施策や時代の要求に応じ改定、さらに新規歩掛を策定してまいりました。そして、今般、既存歩掛と新規歩掛を合冊し、令和6年版として発刊いたします。

管診協では今後も、管路診断コンサルティングサービスを提供しつづけ、安全で安心な満足のゆく事業展開のために、下水道に携わる皆様と連携を深め社会に貢献していく所存です。